



第一礼拝次第

説教：渡真利彦文牧師

前奏			
頌栄	540	会衆	
主の祈り		〃	
プレイズ	「とこしえの道」 「主は今生きておられる」	〃	
聖書朗読	創世記 22：1-18	司会	
祈禱	(旧約聖書 p31)		
特別賛美		学生会	
賛美	新生 255	会衆	
説教	「アブラハムの試練」	牧師	
祈禱			
賛美	新生 552	会衆	
献金			
報告		司会	
頌栄	新生 672b	会衆	
祝禱		牧師	



第二礼拝次第

説教：エイドリアン・アルセ師

Come and see. Let's praise the Lord



ファミリー礼拝

説教：仲本貴子師

聖書：ヨハネ 6：22～40

メッセジ：『わたしが「命のパン」』

<巻頭言>

「礼拝は価値あるもの」②

牧師 渡真利彦文

礼拝は「価値あるもの」です。神学校での礼拝で、二人の先生が印象に残りました。先週、一人を紹介しましたが、二人目は小畑進先生（杉並長老教会）、多くの献身者を育ててきました。その先生は礼拝の始まる前に講壇のオルガンの背後でしゃがみ込み、おもむろに櫛を出して、真剣に髪をとき始めるのです。その姿は前列の学生にしかみえませんでした。私は先生を見て、神の御用に立つときはきちんと身だしなみを整えて出ることの大切さを教えられたものです。小畑先生は礼拝時には毎回そうでした。ですから、私たちは立っていることができないと感じるほどの圧倒的な神のご臨在の中でへりくだり、神の恵みにあずかっていく礼拝を心からささげたいと心から思うのです。

日曜日の礼拝は信仰者の中で、神に心に向ける一週間のスタートの日です。あるおばあちゃんに次のように尋ねたことがあります。「どうしておばあちゃんは、毎週日曜日に礼拝に出席するのですか。年齢と共に耳もよく聞こえないから、先生が何を話しているのかわからないこともあるでしょう。」と話しました。おばあちゃんは、「礼拝は神様との約束です。どんな時でも、神様を礼拝することは神様との約束なのです。」と話してくれました。このおばあちゃんは天に帰っていましたが、今も「礼拝は生きている限り、どんな時でも守っていくものだ」と語り続けているのです。